

みなさんは、個性をバカにされたら、どうしますか。放っておきますか。それとも正直に個性はバカにするものではないと伝えますか。私は間違いなく後者です。個性はその人特有の性質や性格であり、決して悪いことではなく良いことだと考えます。私は人の個性をバカにして許されることは絶対にないと感じています。そう気づかされたのは中学一年生の終わり頃でした。

私は離任される先生へのメッセージカードを作成していました。クラス全員のメッセージカードを貼り付け、周りに一年間のたくさんの思い出を絵で表しました。何人かで手分けして絵を描いていると一人の友達が、ある子の絵を見て、

「なにこの絵。こんな子供すぎない。」

と言いました。この瞬間すごく嫌な空気になり、教室は沈黙状態が続きました。しばらくしてあまりにも沈黙状態が辛かったので私はこう言いました。

「それも一つの個性であっていいよ。」

と。沈黙が続く中、この言葉を言うのはすごく怖かったです。しかし、周りにいた友達も、

「そうだよ。いろいろな絵があっていいと思うよ。」と共感してくれたので、私の気持ちはドキドキからホッとした気持ちに変わりました。このように個性をバカにされて学校に行けなくなる子もいると母から聞きました。言われた子はなにも悪くないのに学校にも行けなくなり、さらに辛い思いをするのはおかしいと思います。言った子が悪いのだから言った子が辛い思いをすればいいのになぜ言われた子ばかり辛い思いをしないといけないのか。言った子が無責任すぎると私は考えます。きっと絵をバカにされた子もあの言葉には隠された言葉の矢があって一生刺さったまま心の傷として残るのだと思います。この経験を通して、人の個性をバカにすることの悪さ、無責任さを改めて感じることができました。

今、私には大切にしている言葉があります。

「けんかは許すけど、いじめや個性を傷つけることは絶対に許さない。」

です。これは中学一年生の頃の担任の先生がこれから一年間一緒に過ごす中で気をつけてほしいこととおっしゃったことです。今でもはっきり覚えています。けんかといじめの違い、どんな理由であってもしじめは絶対に許されない、という強い思いが伝わってくるいい言葉だと私は思います。そして、この言葉のおかげで私はあの時、勇気を出して

「それも一つの個性であっていいよ。」

そう言うことができました。これから先、大人になっても

「一つの個性であっていい。」

これを私の大切な言葉としていつでもどこでも誰にでも言えるようにしていきたいです。

あの経験から少し時間が経った今私は、大切な言葉を、大好きな友達や先生方、町の人、そして世界中の人々に知ってもらいたいと思うようになりました。世界中の人々がみんな

「一つの個性であっていい。」

そう思うようになれば、いじめや差別、不平等な世界はなくなると、私は確信します。あの日以来、個性を悪いと捉えるのではなく良いと捉えるというさらに深い思いを持つようになりました。言われた相手は見えない一生の傷になり、ずっと心に残っていると思います。だからこそ、自分の言った言葉には責任を持ち、人の心を傷つけることがないようにしてほしいと私は考えます。そしてもう一つ、私の大切な言葉が、今日出会ったみなさんから、みなさんの大事な人へと伝わり、世界中の人々が大切にしてくれるようになることを、私は願います。